

ありが隊新聞

2016. 1. 14 発行



新春、号外増刊号

あけまして
おめでとうございます
います!!

皆さんこんにちは！“あっぱれ！天龍村ありが隊”です。

毎月各隊員の近況報告などをお届けしている「ありが隊新聞」ですが、今回は号外増刊号にしました。天龍村に「地域おこし協力隊制度」が導入されて4年が経ちました。私たちは地域おこし協力隊のことを“あっぱれ！天龍村ありが隊”と名乗って活動していますが、ありが隊って何？何で天龍に来たの？何してるの？とよく聞かれます。新年にあたり、改名した理由や現在の思いなどについて、今一度自分を見つめ直し表現してみましたので、現在の私たちの思いを是非ご一読下さい。

天龍村ありが隊とは・・・

2014年4月から天龍村の地域おこし協力隊は「天龍村の人たちにいつも協力していただきありがたい（隊）です」略して「あっぱれ！天龍村ありが隊」に正式に改名して活動しています。

なぜ改名したかと言うと、活動を始めて間もなく我々が本当の意味で地域に入れてもらうという事は「協力する」よりも「協力してもらえる」事ではないかと思うようになったからです。

では、天龍村に入れてもらうため協力していただくためにはどうすればいいのか・・・？それは自分達から率先して村の行事や、活動に協力する事であると思い、持ちつ持たれつに関係に少しでも近づけるように日々活動してきました。現在は多くの方々に協力していただいております、村の方の協力なしでは本当に成り立たない活動ばかりになっております。村の人たちの協力は「当たり前」ではない、「有り難い」事だという思いを持ち続け今後も活動を続けていきます。

（決して自分達の存在がありがたいだろうーという意味ではありません。）

文 いも兄 村澤雄大



平成27年7月1日撮影

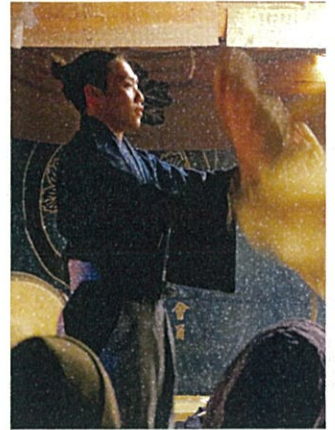
村澤雄大 (いも兄)

名前/ニックネーム/年齢/前職/住んでいる地区/好きなもの

28歳/OISCA THAILAND(NGO 団体)・テレビ番組制作会社/■■■■本バネバするもの

・なぜ協力隊になったのか？

大学時代の途中から日本の大量消費社会の仕組みが嫌になり、自分で食べ物を作れる生活、持続可能な社会の仕組みを夢見るようになりました。タイの山の中での生活はまさにモノで溢れかえっている時代に生まれた僕を真っ白にしてくれた感じでした。帰国後も自分の故郷でそういった暮らしをしたい！まさに時代を先取る思いで協力隊の制度を使い天龍村にやって来ました。



・なぜ天龍村を選んだ？

天龍村を選んだのは「たまたま募集していたから」です。

・今の活動内容

ゲストハウス&シェアハウス満月屋作り／満島ホテル改造計画／中井侍には侍おるんじゃープロジェクト立案／天龍村体験ツアーななめに暮らす数日。企画／天龍村まぼろし的大豆プロジェクト／ヤツガシラ&エゴマ栽培／武蔵野大学漏れバケツ調査／柚餅子継承／ふるさとCM 大賞撮影／ゆずぼうやヒッチハイク／ラフティングガイドトレーニングなどなど・・・

・活動に対する思い

時々村の方に「本当に村のためになるのか？」と聞かれる事がありますが、正直わかりません。答えがないものに対し、「応えていく」のが僕の活動だと思っています。さらに「村のため」とはなんなのか？僕は行政＝村ではないと思っていて、国＝国民という考えであれば、村を作っているのはそこに住んでいる村民です。「村のため」＝「村民のため」と定義づけましたが、村民一人一人もちろん考え方が違うわけで、村の人が全員「ためになる！」という万人受けできる活動は不可能であり、それをやる必要性も見出せませんでした。なので「自分で考えよう」と決めました。ふざけたような活動ばかりに思えるかもしれませんが本人はいたって真剣で、すべての活動が村の人と繋がっていける最高の活動であると自信を持って言えます。自信があるだけで「正しい」のかはわかりません。そして、僕は3年目になるのですが「3年間で村は変わったのか？」と聞かれたら「変わっていません」と答えると思います。そんな短期間で簡単に地域が変わったら「限界集落」なんて言葉は生まれていません。だから3年後も天龍村に居続けるつもりです。自分が動いてみた3年間は10年後にどんな形になっているのか。今からそれが楽しみです。

僕は本当の家族のように思える人が天龍村に何人も居ます。その大好きな人達と暮らしていきたいという思いが何よりも強い原動力になっています。いつもありがとうございます。

・2016年の決意

僕は2016年6月いっぱい任期満了でありが隊を卒業することになります。多くの皆さんに「生活していけるの？」と心配していただいていると思いますが、もちろん僕自身も心配です（笑）でもとりあえずやってみないと納得できない性分なんでやってみます。2016年の僕の目標は「ありが隊じゃなくなっても天龍村で生活してみせる」です。今まで以上に皆様にご迷惑をおかけする事になると思いますが何卒よろしくお願い致します。



河本雅美（まさみん） 38歳

☆なぜ天龍村の協力隊になったのか

大学卒業後、マッサージ、脱毛、痩身などの美容のお仕事をしてきました。天職だと思っているのに、どんどん手荒れや湿疹がひどくなり、「本当の健康ってなんだろう??」と自分にとって心地のよい衣食住、自然療法なども勉強するようになりました。

宮城県での東日本大震災の経験も私にとって大きなきっかけのひとつです。

ライフラインはすべてストップし、どこもかしこも真っ暗でお店も全部閉まっている。。自分の携帯も使えない。。お腹はペコペコ。。地元愛知へも帰れない。。お財布を持っていたても何の意味もありませんでした。

いのちが助かっただけ本当によかったと思っています。その時に、「これからは生きる力、生きる知恵をもっと学びたい!!」と強く想い、動き出しました。「田舎暮らし」と言っても、見知らぬ土地で空き家も仕事も見つけるのはとても大変でした。「地域おこし協力隊制

度」を知ってからはこの制度に焦点を定め、ようやく出会えたのが「天龍村」だったのです。

☆今の活動内容、天龍暮らしへの想い

1. 「大河内雑穀プロジェクト」

食べて元気になって、育てることによって人も土地も元気になる雑穀の魅力を伝えて、村内の休耕地で雑穀栽培が広がることを願って、活動しています。

それは、雑穀を食べて自分のカラダで実感しているのと、（例えば、雑穀を食べない日が続いた後、今度はしっかり食べる日が続くとテキメンにカラダが軽くなります。ヤル気も出ます。間食も減ります。）

畑に行くたびに雑穀のグングン成長している姿を見て元気になるのが自分で分かるからです。天龍村に来て2度雑穀の収穫を経験しましたが、去年よりもずーずーと雑穀が好きになりました。しかし、事業としては成り立っていないのが現状です。でも、この貴重な雑穀栽培を続けていくにはどうしたらよいのか。2016年の課題です。

2. 「自力整体=自分で自分の体をほぐす=健康の自給自足」

天龍村に来た当初、村の方々と会話するなかで、感じることのひとつに「健康」がありました。「気持ちは元気だけどからだのココが痛いよ。何か良い方法はない??」、「数値が悪くて食事制限しなくてはいけないの。何か良い方法はないかな??」という質問をよくされました。豊かな自然のなかで暮らし、都市部の同年代に比べて明るくお元気で健康そうに見えても、実は体の痛みや不調を持っている方。また、「いつまでも今の健康を維持するために心掛けたいが、何をしたら良いのか分からない」、というお話をよくお聞きしました。以前暮らしていた徳島県の山の中に自力整体の先生がいて、10年選手の生徒さんは皆60代以上でとてもお元気でした。ならば、天龍村で自力整体を広め、CM大賞に輝いた「元快楽集（集落）」という言葉のとおり、「みんなでますます元気になったらたのしいな♪」と思い、今に至ります。

私は天龍村に移住して来て本当に幸せです。素敵なお出会いもたくさんありました。

みなさま、いつもありがとうございます。

末永くみなさんとたのしく健やかに暮らしていきたいと願っています。

「介護生活になる前に自分で健康になる方法を身につけてもらいたい!!!」、という提案をしています。

近隣の病院から「最近、天龍村の人の来院が少なくなったわねえ」と言われることを目標に活動させていたでいております。任期は平成29年3月までです。

任期終了後、天龍村定住にむけての■■■■でお家は見つかりました。あとはお仕事です。今の活動をどう繋げていくかはっきり見えてはいませんが、一步一步動くことによって見えてくるものがあると信じています。今はすべて手探り状態です。みなさま、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

こやなぎだいすけ

- [illegible]

もともと「ななめに暮らす数日。」で大学三年生の頃から天龍村に遊びに来ていました。そこでお世話になったありが隊の皆さんや地域の人と触れ合うことで「地域おこし」「地域振興」という分野に興味をもち、大学でそういったことを専攻し勉強するようになりました。

卒業後の進路を決めるとき、一般企業に就職することに迷いがありました。他にはできないような仕事をしたいという気持ちと、大学で学んだことを活かしたいという気持ちから、縁のあった天龍村の「地域おこし協力隊」として働くことを選びました。

「ななめに暮らす数日。」ではたくさんの人にお世話になりました。ホームステイとして受け入れていただき、坂部地区の方々との交流、向方地区ではどんぐり向方学園の皆様と一緒に給食を頂きました。そういった触れ合いを通して、天龍村の人々の暖かさに触れ、この村に住んでみたいと思ったことがきっかけです。

天龍村に住んで9ヶ月目に入っています。村民の皆様から名前を覚えていただき、声をかけてもらうことが多くなりました。本当にありがたいことだと感謝しております。

2016年は挑戦の年にしたいと思います。デザインの分野は自分が好きなことというだけで本格的に勉強したことはありません。あと2年間、長い目で見守ってくれると嬉しいです。

当初は「地域おこし協力隊」は村の為に・村が活性化する為に・村の資源を活用して・仕事をするものだと考えていました。ただ、半年経って「本当に村のため？」「いま自分がやってることは村の為にってる？」「てか俺じゃなくてもいいじゃん」「そもそも自分にとって村おこしって何だ」と、活動に疑問を持つようになり、楽しくないなと思うようになってしまいました。

ただ現在は、別の地区で頑張っている協力隊や全国の協力隊交流会から刺激と考えを頂き、もう少し簡単に考えるようにしました。もっと自分がやってみたいと思える分野に挑戦し、結果それで村がちょっとでも元気になればいいかなと今では考えています。

5月に就任してからは中井侍のお茶摘みツアーやアサザ基金の天龍村お宝探しプロジェクト、ななめに暮らす数日など、たくさんの方々にも助けてもらいながらプロジェクトを行ってきました。今後は今まで挑戦してみたいと思っていたデザインの仕事をしたいと思います。具体的には、最初に写真の小冊子を作るプロジェクトを勧めています。これからカメラを持ってウロチョロするかとと思いますが、怪しまず見守ってください（笑）



よろしくお願いします。
小柳大祐

あけましておめでとうございます！

柏原亜希です。昨年11月に24歳になりました。

ここからはさっと。自己紹介いきます！！出身は■■■■市にある■■■■で、人口はざっと2■■■■人ほど。

車では1.5時間～2時間あれば周れるサイズの島です。高校までは広島。→大学で愛媛。→就職で大阪。→昨年7月から天龍と。天龍に来るまではずーっと西日本に居ました。西から東へ来て半年が過ぎ、徐々に天龍での生活にも慣れてきました。今は■■■■住んでいます。日々の生活の中でいろんな事に触れることができ、成長できる環境があるので本当にやりがいがあるし、来てよかったなと思っています。



○なぜ協力隊になったの？

前職は商社の営業事務で、毎日パソコンと向き合い、社外の人と話すのは電話ばかりでした。電話でしか話さない例え社外で会っていたとしても顔が分からない。話もできない。そんなうわべだけ。機械上だけの関わりではなく、人と直接会って、みんなで一緒に泣いたり笑ったりできる仕事をしたい。協力隊なら人と密に関わる事が出来るのでは？と感じたからです。

○なぜ天龍村を選んだの？

天龍村は、みんなが暖かそうな雰囲気だなーと思ったからです。協力隊募集サイトで、天龍の記事だけ他の地域と雰囲気が異なっていて、暖かそうだしおもしろそうだな、と思い応募してみました。面接においでー！とご連絡があり、6月7日に初めて天龍に来ました。面接の前日に満月屋でご飯を食べながらの質問タイムを設けて下さり、ありが隊の先輩方や役場の担当の方、地域の方などが来てくれていて、村のこと・ありが隊のことなどをとても丁寧に教えて下さいました。その時の先輩方の話している姿をみて、“なんてキラキラした顔で話すんだろう。本当に楽しんで仕事をしているんだなー。私もこんな人達と仕事してみたいな、ここで頑張りたいな”と思い天龍に決めました。

○現在の活動内容と天龍に対する想い。

最近はクリスマスや節分などのイベントの企画・柚子や山ゆり関連で集まったデータの処理・先輩隊員のお手伝いなどを行っています。村に来てから半年が経ち、いろいろな経験をし、活動をしていく中で沢山の方とお会いして、様々なことを教えていただきました。そんな日々の中で、天龍村の“ここ好きだなー”“こういうところ、他の人にも教えてあげたいな”と思うところが増えてきています。接してくれる人がとっても暖かかったり。季節関係なく霧がすごかったり。人も地形もぜーんぶひっくりくるめて楽しくてほっこりできる村だと思います。

○活動内容に対する想いと2016年の抱負。

今年はずっともっと好きなものを増やして、活動の幅も増やせていけるといいなと考えています。今やらせて頂いている仕事は、どの仕事でもまだまだ失敗も多いし、悩んでしまう事もあるのですが、落ち込むたびにいつも皆さんの笑顔を見て元気を頂いています。皆さんが笑顔で楽しんで下さっている姿を見ることが、本当に嬉しいです。私と関わって下さる皆さんが、少しでも多く笑ってくれるように、楽しいと思ってくれるように活動していきたいです。まだまだ慣れていないことの方が多く、皆さんにご迷惑をお掛けすることも多々あると思いますが、昨年以上に頑張っていきますので、今年も一年間、宜しくお願いします。

あっぱれ！天龍村ありが隊のこれまでを振り返って、、、



平成25年4月：内藤隊員（写真中央）
活動開始
当時の阿南町地域おこし協力隊と撮影



平成25年7月：阿加井隊員・村澤隊員
（写真上段中央・左）活動開始
柚餅子工場にて撮影さんと



平成26年4月：河本隊員・徳留隊員
（写真下段右・下段左）活動開始
天龍村の「て」のポーズで



平成27年3月：徳留隊員 離隊
5月：小柳隊員（写真下段左）
活動開始 中井侍のお茶カフェにて



平成27年6月：内藤隊員・阿加井隊員 離隊
7月：柏原隊員（写真左から2番目）
活動開始 左閑辺屋にて



■と隊員の5人で
現在は4人の隊員で頑張っています。
今年もよろしくお願いします。